

Ⅳ 課題別実践アイデア例

各アイデア例の学力向上のための視点一覧

ページ	課題	全国学力・学習状況調査		教科指導								学校経営		
		調査結果の活用	調査問題	教科名	教科の特性	授業展開例	言語活動	場面設定	表	学習形態	実践プログラム	教育課程の編成	校内研修	家庭との連携
44	伝え合う力			国語			○		○		○			
45	読むこと		○	国語	○	○	○							
46	読むこと			国語	○	○	○				○			
47	読むこと	教科		国語		○	○							
48	説明する力			算数			○		○					
49	説明する力	教科		算数	○	○	○		○					
50	記述する力	教科		算数		○			○		○			
51	記述する力	教科		算数				○	○	○				
52	資質・能力の育成			理科	○									
53	コミュニケーション			英語					○					
54	振り返り	質問紙				○		○						
55	ICT活用							○	○	○				
56・57	組織的な活用	教科・質問紙									○	○	○	○
58	研修での活用	教科・質問紙									○		○	
59	自己肯定感	質問紙						○	○	○				

※ 表を参考に、実態に応じて活用してください。

課題

「全国学力・学習状況調査」の国語の問題において 自分の考えをもち、伝え合う力が弱い

手立て

「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラムを活用し、
児童・生徒の思考によりそった授業づくりを行う

具体例

POINT① 考えをもつまでの学習過程を重視する

○自分の考えをもつための手立てを充実させる

- ・働かせたい「言葉による見方・考え方」を意識した発問を準備する。考える時間を確保する。
- ・互いの立場や意図、条件をはっきりさせ、分かったことや疑問点を整理する過程を丁寧に行う。
- ・思考の過程を可視化する。
- ・考えを形成する際、そう考えた理由や根拠を明確にする。

《「思考ツール」①や「考えるための技法」②を、各教科・領域で横断的に活用》

児童生徒が意識して考える視点の移動ができるよう、国語科以外の教科・領域でも共通理解を図り、活用する。

→自分の考えを整理したり、正確に捉えたりすることができる。

① 県総セ カリキュラム開発部

『思考スキルに応じた思考ツール活用』

② 小・中 総合的な学習の時間
学習指導要領

POINT② 対話によって自分の考えを高める

○考えが独りよがりにならず、立場や条件に沿って伝え合えるよう、まとめ、表現する視点を確認する

○文末表現やつなげる言葉を工夫するなど、既習事項を取り入れながら書き、思考を統合させる

○自分の考えと比較しながら友達の考えを聞き、良いところを柔軟に取り入れて、考えを再構築する場を設定する（話し合う活動を通して考えを深める）

《頭の中のイメージや考えを言葉で表現できるよう、系統的に語彙を広げる》

小学校第3・第4学年

様子や行動、気持ちや性格を表す語句

小学校第5・第6学年 思考に関わる語句

中学校第1学年 事象や行為、心情

中学校第2学年 抽象的な概念

中学校第3学年 理解・表現に必要な語句

【学習指導要領 第2章第2節2語彙】

POINT③ 言語活動を充実させ、認めて称賛する場を増やす

○伝え合うことの「手応えと喜び」を感じる成功体験を重ねる

- ・生活ノートやミニスピーチ（スモールステップから。心理的負担を配慮。）の活用。

- ・学校行事などの、心が揺さぶられた体験後の作文（共有 評価・反響の場づくり）。

→認められることで自己肯定につながり、積極的な表現や書くことへの自信につながる。

→記述を通して自分の考えを整理し、理解を深める。共有から自他の良い点を学べる。

課題

「全国学力・学習状況調査」の国語科（小学校）

目的に応じて文章を読み、分かったことをまとめることに課題がある

手立て

「言葉による見方・考え方」を働かせた授業づくりを行う

具体例

POINT① 文章の要旨を捉えて、「読み」でもった課題から学習計画を立てる

○文章に何が書かれているのか、内容の大体を捉える
（初読前に語句の意味を調べる）

- ・何がどのように書かれているのか（文章全体の構成）を捉えて読む。
- ・読みの問い（課題）をもち、読みの目的を明確にする。

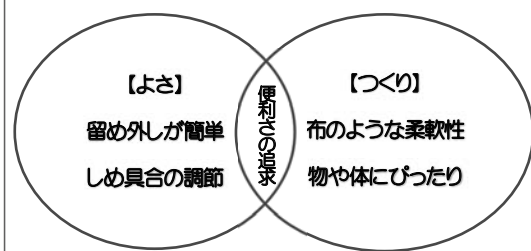
「身近にある便利なものを調べて伝えよう」
【学習計画】
① 段落のまとまりを読んで見出しを付ける。
② 仕組みについて中心となる語や文を見付けて読む。
③ 文章と図を結び付けて、必要な情報を読む。
④ 筆者の考えを捉えて自分の考えをまとめる。

POINT② 「言葉による見方・考え方」を働かせて、必要な情報を見付けて整理する

○「読むこと」の目的に応じて、図や表の見出しやリード文と文章を線で結び付けて読むことで内容を深く理解する

- ・ICT 機器を活用して、文章と図を結び付けた画面を共有しながら、情報を、思考ツール等を活用してまとめる。

調べたもの



POINT③ 「言葉による見方・考え方」を働かせて、分かったことを自分の言葉でまとめる

○目的に応じて文章と図や表を結び付けて読み、見付けた情報をもとに自分の考えをまとめる

- ・自分の見付けた情報を他者と交流し、目的に応じた内容になっているか比較・検討する。
- ・どのような読み方をして、自分の考えをまとめたのかについて振り返る。

《ふりかえり》
文章と図をつなげて「便利さ」に着目して読んだら、筆者の考えがよくわかりました。便利さについて、なぜ必要なのかについて調べるのが私たちのくらしをよりよくしていくのだと思いました。

課題

「全国学力・学習状況調査」国語科（中学校）

主語を捉える力

手立て

ゴールが明確な言語活動を設定し主体的な学びを創出する
～『竹取物語』を小学校2年生に向けリライトしよう～

具体例

POINT① 見いだす 学習のゴールを知り、見通しをもつ

○見通しをもたせる

- ・既習の『竹取物語』を小学校2年生にも分かりやすいように現代語訳し、絵本を作る」というゴールに向け、単元の見通しをもたせる。
- ・学習計画と本単元で身に付けたい力（主述の関係を捉える）を意識させる。

課題意識をもたせる

・古文には、しばしば主語が省略されていることがある。小学校2年生にも分かりやすいように現代語訳するには「誰（何）が」をはっきり記述することが大切である。そのために、主語についての知識を深めることが必要となる。

学習目標を生徒に意識させることで、確かな力を身に付けさせることができます。また、学習計画を活用することで主体的な学びに結び付けます。

POINT② 自分で取り組む・広げ深める 解決の見通しをもつ

○「主語の役割」「主述の関係」について理解を深める

- ・原文は必ずしも直訳する必要はなく、小学校2年生でも「だれがどうした」「なにがどんなだ」などがはっきり分かるように訳を工夫することを意識させる。
- ・様々な絵本を参考に、検討させる。
- ・主語をつくる助詞について理解を深める。

【原文】
今は昔、竹取の翁といふ者ありけり。
野山にまじりて竹を取りつつ、
よろづのことに使ひけり。
名をば、さぬきの造となむいひける。
検討①翁は名前を・・・
②翁の名前は・・・
とよばれている人が

POINT③ まとめあげる 自分の言葉でまとめを書く

○学習活動を通してどのような力を身に付けることができたか、自分の言葉で書く

- ・できた絵本を実際に読み聞かせる（オンライン会議システムの活用）。
- ・学習目標に照らして、「何ができるようになったか」「何が身に付いたか」について振り返り、自分の言葉でまとめあげる。

次につなげる振り返りをする

・学習の振り返りは、単元の途中でも行い、「粘り強さ」「自己の学習の調整」を見取り、そのことを通して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

『竹取物語』以外の様々な古文を活用することも考えられます。また、日本語の特徴として、主語を省略した方がよい場合もありますが、それはどのような時か、ということについても考えさせます。

課題

【国語】古典を主体的に読むことができない

手立て

古典を脚本化する言語活動の取組

POINT① 言語活動の見本を示し、分析させて学習の見通しをもたせる

POINT② 個々に教材を選び、学習を進めていく

POINT③ 学習で作成した表現物を共有し、古典に親しみ読みを深める

具体例

POINT① 言語活動の見本を示し、分析させて学習の見通しをもたせる

○教師が作成した見本で学習のゴールを示す

- ・古典（枕草子）の魅力を紹介し、興味をもたせる。
- ・古典（枕草子）を脚本化した見本を生徒に見せる。

○見本を分析して学習の見通しをもたせる

- ・古典がどのように脚本として書かれているのか、見本を読んで確認する。
- ・見本の脚本に書かれていることから、どのような学習をどのような順にしたら良いか考えさせる。

先生のような脚本を書いて
みたいな。
どの話（章段）で書こうかな。
たくさん読んでみよう。



POINT② 個々に教材を選び、学習を進めていく

○古典（枕草子）のどの章段で脚本を作るのか多読をして決める

- ・現代語訳の本や原文を多読しながら、気に入った章段を選ぶ。

○選んだ章段の内容を脚本にする

- ・台詞やト書きなど脚本の書き方を確認する。
- ・個々に脚本を書き進める。



POINT③ 学習で作成した表現物を共有し、古典に親しみ読みを深める

- ・個々で書き上げた脚本をグループや学級全体で交流し、古典の面白さや現代でも共感できること、脚本を書いた感想などを共有する。
（時間があれば、作成した脚本で実際に演じてみると良い。）

課題

【算数】式や図を言葉で説明できない

手立て

次の3つの活動に様々な単元において取り組む

POINT① 自力解決において、考えを、式・図・言葉で表現する

POINT② ペアやグループでの対話を取り入れ、表現力を高める

POINT③ 全体共有の場で児童の考えをつなぐ

具体例

POINT① 自力解決において、考えを、式・図・言葉で表現する

○低学年から図・言葉でも考えを表現する

- ・具体物操作 → 解決の過程を図で表現する。
- ・問題場面に沿って図に表す。

○式、図、言葉を関連付ける

- ・色分け、ナンバリングなどをし、言葉での説明が図や式とどのように関連しているのかを分かりやすくする。
- ・自力解決後の学び合いを想定し、分かりやすく表現する。

【様々な図】

ブロック図 ○の図 テープ図
線分図 数直線 関係図
液量図 面積図 ペン図 等

POINT② ペアやグループでの対話を取り入れ、表現力を高める

- ・全員が考えを説明する機会を持ち、アウトプットすることにより、自分の考えを確実なものにする。
- ・説明する、質問される、答えるというやりとりによって、よりよい説明になる。

○同じ考えをもつ児童同士の対話の例

- ・それぞれの表現を比べ、検討し、より分かりやすい表現へと高める。

○異なる考えをもつ児童同士の対話の例

- ・友達のかいた図や式だけを見て、どのように考えたのか推測し、説明する。

Aさんの説明は、
図と関連付けて
あって分かり
やすいね。

どちらの図の方
が分かりやすい
かな？



POINT③ 全体共有の場で児童の考えをつなぐ

- ・Aがかいた図を見て、Bが式を立て、Cが説明をする、などの児童の考えをつなぐ活動を行い、説明する力を高める。

課題

「全国学力・学習状況調査」の算数の図形の領域の問題において
自分の考えを自分の言葉で書くことができない

手立て

- POINT① 図形の指導の際には、必要とする情報を選び取る時間を設ける
POINT② 面積を求める学習では、量の保存性や量の加法性を再確認する
POINT③ 自分の考えを筋道立てて説明できる機会を設ける

具体例

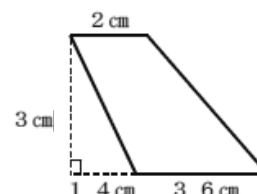
POINT① 図形の面積を求める際に必要な情報を図形から選びだせるようにする

○求積のために必要な情報を正しく読み取ることができるかを
評価する

- ・問題提示の工夫。
(例) 数値を入れず、マス数を数える。求積の際に、使用しない
辺の長さを与える。底辺を常に下に出来るようにしない。
- ・底辺や高さなどを図から読み取る。
- ・底辺や高さを判断した理由を発表する。

○図形と求積公式を関連付けているかを評価する問題を検討し、
評価計画の中に位置付ける

評価問題(例)

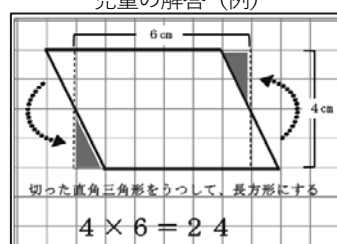


POINT② 「図形を分割して並び替えても面積は変わらないこと」 「2つの図形を組み合わせた図形の面積はその和になること」 を操作を用いて確認する

○量の保存性や量の加法性を感得する

- ・マス目で数える。
- ・図形を動かし、面積が変わらないことを視覚的に理解する。
- ・移動前と移動後の面積の和を比較し、確認する。

児童の解答(例)



POINT③ 自分の考えを筋道立てて説明できるように発表の機会を設ける

○自分の考えや答えを単に伝えるだけでなく、その理由や主張
の根拠を明確に示す

- ・「底辺に垂直に交わる線で切って、台形に分けて長方形にしました。」など、数学的な表現を用いて発表する。
- ・「なぜ分けたの?」「そうすることでどんなよさがあるのかな?」などの具体物操作に関連する切り返しの発問を通して、児童の思考の可視化に努める。



課題

「全国学力・学習状況調査」の算数の記述式において 無解答率が高い

手立て

毎時間の授業の「積み重ね」で、児童の書く力を高める

具体例

POINT① 見いだす 課題を「自分自身のこと」として捉える

○課題を発見し、解決の糸口を考え、解決の見通しをもつ

- ・前時までの学習との違いを捉える。
- ・解決の糸口（もし～だったら、～できるのに）を考える。
- ・既習をどのように工夫したら課題が解決できるか、話し合う。

例えば異分母分数のたし算・ひき算の導入では

- ①今までと違い、分母が同じではない。
- ②もし、2つの数の分母が同じだったら、計算できる。
- ③分母を同じ数にそろえる方法はないだろうか。
→通分する

教師からの課題の提示や、一部の児童の意見だけでの課題を設定する等はいけません。「どう思う」「本当にそうかな」と問いかけ、児童に深く考える機会と時間を与えることが大切です。

POINT② 広げ深める よりよい表現や考えにレベルアップする

○端末を活用し、友達の考えを共有・比較して自分の考えをよりよいものに仕上げる

- ・自分の考えを、学習支援クラウドを活用してまとめる。
- ・児童同士で考えを交流する。
- ・友達の考えを自分の端末に取り入れ、よりよいものにまとめあげる。



自分の考えを端末でまとめる。

友達の考えを端末に送信してもらい、自分の考えと比較しながら、よりよい表現にまとめていく。



もらった考えを端末上で整理し、考えを深めていく。

POINT③ まとめあげる 自分の言葉でまとめを書く

○学習活動を通してまとめた考えを、自分の言葉で書く

- ・端末にある自分や友達の考え方をもとに、自分の考えを深め、まとめる。
- ・友達と自分との違い、自分の考えの変容などに着目して書く。

- ①端末に書かれていることを使って学習事項のまとめを書く。
- ②端末上の考えを整理したり友達と自分の考えを比較したりすることで、気付いたことや、自分の考えの変容（なぜ、どのように変容したか）などに着目して、「振り返り」を書く。

児童が主体的に学習に取り組むことによって、「まとめ」や「振り返り」を自分の言葉で書けるようになります。話し合い活動を行うときに、まとめや振り返りを意識して活動させましょう。

課題

「全国学力・学習状況調査」の算数の記述などで 子供の表現力に課題がある

手立て

対話を通して子供の表現力の向上を図る

具体例

先生の話す時間が長ければ長いほど、子供が思考し表現する時間が減ります。
子供が考え、表現する時間を確保するために、先生が話す時間の縮減を図りましょう。

POINT① 事前チェック 「先生が話す時間」を減らすために

○チェックポイント

- ・子供の発言を復唱していないか。
- ・子供が単語で答えられるような発問ばかりしていないか。
- ・授業の大事なポイントを先生が話をしていないか。

- ①先生が復唱すると、子供は「先生の分かりやすい説明を聞けばいい」と友達の発言をしっかり聞く必然性や必要感がなくなります。
- ②子供に単語で答えられるような質問をしても、子供の表現力は伸びません。主語・述語を適切に用いて説明ができるような発問を心がけましょう。
- ③大事なことは、「子供が発見し、子供の言葉で子供同士が伝え合うようにする」ことです。

POINT② 指導改善 対話を通じて、子供が思考し表現する機会や時間を増やす

○改善ポイント

- ・友達の発言の復唱は、子供にさせる。
- ・発問は、思考を揺さぶることができるように吟味し、焦点化する。
- ・対話を通して、子供の気付きを大切にする。

- ①子供の発言の後、先生がすぐに話さず、子供たちに「どう思う？」と投げかけ、友達の話を聞く習慣を身に付けさせるとともに、友達の意見に対して自分の意見をもつように指導しましょう。もし、復唱が必要なときは、「今の考え、もう一度言える人？」などと子供に復唱させましょう。このような子供と子供の発言をつなぐ取組が、子供の思考し表現する力を育てます。

- ②例えば1年生の「くりさがりのあるひきざん」ならば、「どうやって引けばいいでしょうか？」と聞くだけでなく、「13-9の9は、どうやって引けばいい？数図ブロックで説明できるかな？」と、引けない9を焦点化させるとともに、どんな活動をしたらいのか、子供が見通しをもてるようにしましょう。

- ③本時の内容で大切なことを先生が説明してしまうと、子供は先生の話等待つようになり、深く考えなくなってしまう。自分たちで大切なことに気付いたときは、積極的にその発見を伝えようとしています。この「伝えたい」と思う気持ちが、思考し表現する力を伸ばします。「伝えたい」と思う「大発見」を子供ができるようにしましょう。

課題

【理科】主体的に探究するための資質・能力の育成不足

手立て

次の3場面を、様々な単元において設定する

POINT① 事象を論理的に整理・表現する場面

POINT② 科学的な概念を働かせて様々な活動に取り組む場面

POINT③ 情報を批判的に判断する場面

具体例

POINT① 事象を論理的に整理・表現

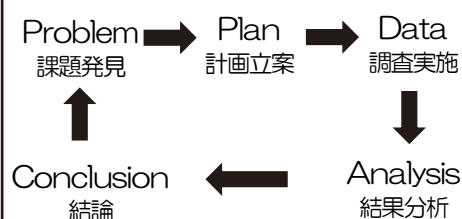
OPPDAC サイクルの充実

- ・PPDAC サイクルに基づく探究活動。
- ・対照実験の重要性。

○実験や観察のアブストラクト(全体像)を作成&共有

- ・目的 - 手順 - 結果 - 考察 - 展望を端的に表現。
- ・アブストラクトを共有し、表現を推敲。

【PPDAC サイクル】



POINT② 科学的な概念を働かせた取組

○専門用語の定義の明確化

- ・具体例や経験から、自分たちで定義を検討。
- ・自分たちの定義と学術的な定義の差を検討。

○専門用語を用いたアウトプット

- ・エネルギーやイオン等の専門用語を用いた表現。
- ・身近な現象を、専門用語を用いて解釈&説明。

(例) エネルギーの視点から、オルゴールが鳴る仕組みを説明してみよう。



POINT③ 情報を批判的に判断

○情報の真偽を判断

- ・情報の根拠を明らかにしようとする姿勢。
- ・根拠の真偽を明らかにしようとする姿勢。

○事象の関係を判断

- ・因果関係や相関関係等、誤認しやすい関係に留意。
- ・今回、観察された関係を一般化。

(例)

Aが増加したら、Bも増加した。したがって、Bを増加させたいのであれば、Aを増加させればよい。

・・・本当か？



課題

【英語】自分の考えやその理由を書く能力が低い

手立て

コミュニケーションにおける目的・場面・状況の設定と多様な表現の理解

POINT① 目的・場面・状況設定の明確化

POINT② コミュニケーションにおける背景理解

POINT③ 書くこと・話すことにおける多様な伝え方の理解

具体例

POINT① 目的・場面・状況設定の明確化

○自分自身を表現する機会をつくりだす

- 特定の言語材料を使って表現することを主の目的にするのではなく、学習した言語材料を使って表現したり、理解したりする目的・場面・状況を明確に設定することで、実際に近いコミュニケーションを生み出すことができる。そして、それが学習意欲につながることを期待できる。

(例) 現在完了が言語材料の単元

×現在完了（経験）を使って英作文を書かせる活動
○ALTへおススメの場所紹介する活動

冬休みに日本国内で旅行をしたい！行ったことがない所に行ってみたい。日本の文化を体験したい！

私は○○へ行ったときに、そこで□□をつくったことがい思い出！それを伝えてみよう。

×現在完了（継続）を使って英作文を書かせる活動
○外国人の転校生へ助言する活動

どんな部活動があるのだろう。みんなはどんな習い事しているのだろう。

ぼくは2年間卓球部に所属しているから、頑張ってみよう。小2のときからピアノを習っていることも伝えてみよう。

POINT② コミュニケーションにおける背景理解

○言語文化や慣習に基づく適切な表現を学ばせる

- 実際に近いコミュニケーションを生み出すためには、その国の言語文化を理解する必要がある。指導者がこれらを理解し、伝えていくことで学びに深まりが生まれる。
- 右の例は、日本語（文化）に基づく解釈をすると、混乱が生じる可能性があることを示している。

(例) 否定疑問文への返答

外国の友人

Do you like dancing?
「きみ、踊るの好き？」

Really?
Don't you like dancing?
「本当に？好きじゃないの？」

日本人の私

No, I don't.
「いや、好きじゃありません。」

Yes, I do. X
「うん、好きです。」

No, I don't. O
「うん、好きじゃないです。」

POINT③ 書くこと・話すことにおける多様な伝え方の理解

○場面に応じた適切な表現を学ばせる

- 同じテーマや、同じ内容を表現するのでも、手段（やり取り・発表・書く）や場面（フォーマルな場・カジュアルな場）、目的（交流や面接など）によって伝え方は変わってくる。これらを理解することによって、多様な表現を習得することができるようになる。

(例) 中学校での思い出を伝える

ALTとやり取りする

面接形式で伝える

クラスメイトに発表する

学級の掲示物として作成する

高校の先生等に送附で発表する

ALTの知り合いに手紙を書く

課題

「全国学力・学習状況調査」の児童生徒の質問紙において 振り返りを計画的に位置付ける必要性がある

手立て

- POINT① 働かせた見方・考え方を板書し、まとめに使えるようなポイントをノートに残す習慣をつけ、振り返る際の材料とする
- POINT② 学習の過程を振り返る時間を設け、全体で共有する
- POINT③ 振り返るポイントを明確にする

具体例

POINT① 働かせた見方・考え方を板書したり、授業中に大切だと感じたポイントを記録する習慣をつけたりし、振り返りの際の材料とする

振り返る際に、自分自身の学習の足跡を振り返らせるために、

○本時の学習における自分の見通しを書かせる

○大切な気づきやアイデアを吹き出しなどを用いて記録に残させる

・自分にはなかった考えやアイデアを大切にさせる。

○働かせた見方や考え方を板書に残す



POINT② 本時の学習を振り返る時間を確保し、全体で共有する場を設ける

○新たな自分を発見し、授業の構成を見直し、熟考できる時間を確保する

○振り返りを効果的に活用する

- ・授業の終末場面で紹介し、全体で共有する。
- ・ポートフォリオを活用し、資料の一つとする。

○発表の形態を工夫する

- ・ICT機器等を活用して、一斉に画面に提示する 等。

○次の時間の学習へつながる振り返りとする

- ・本時の学習を振り返るだけでなく、新たに生まれた疑問や次への課題も書く。
- ・次の授業の導入場面で紹介し、既習内容を想起したり、本時の学習のめあてを明確にしたりする。

振り返りの具体例

平行四辺形も、長方形や三角形に形を変えれば求められることがわかった。
次の図形も、長方形や三角形に変えれば求められると思う。

POINT③ 振り返りのポイントを明確にする

○どのような問題を解決したのか？【＝ 問題】

○問題を解決するために自分がどのように考えを進めたのか？【＝ 自分の考え、思考過程】

○問題を解決するための友達の考えにはどのようなものがあるのか？【＝ 友達の考え】

○話し合った結果、どの考え方や方法がよりよいものだったか？【＝ 価値付け】

○大切な考え方や方法、技能のポイントや覚えておくべき知識は何か？【＝ まとめ】

課題

問題を解決するための思考力や、自分の考えを適切に表現する力が低い

手立て

「思考し、表現する力」を高める活動の中で効果的にICTを活用する

具体例

POINT① 個に応じた学習の充実（自身の考えをしっかり形成する）

○自分の考えをノートに書く時間を確保するとともに、適切な支援をする

- ・問題解決の方法を見通す時間を確保し、共有する。
 - ・クラウドを用いて、既習事項や考え方のヒントを必要な時にタブレットで見られるようにする。
- ※まずは自分の考えをしっかり形成する。

- ・問題解決に必要な見方・考え方を一覧にして掲示
- ・問題解決の見通しをプロジェクターやタブレットで共有
- ・やることは言葉の指示だけでなく可視化（UDの視点）

POINT② 「思考し、表現する力」を高める対話活動

○書いたものを共有し、自身の考えを広げ深める

- ・ペアやグループでノートを見せながら自分の考えを伝え合う機会を設ける。
 - ・カメラ機能を用いてノートを撮影し、共有する。
- ※様々な考えに触れることで、自身の思考力、表現力を高める。

- ・ノートを用いた発表（見せるノートを意識）
- ・話し方、聞き方の視点を明示
- ・ICTを用いて考えを共有することで、効果的、効率的な比較検討を実施

POINT③ 自分の言葉でまとめを書く

○自分の言葉で、学習問題に対するまとめや問題解決に有効だった見方・考え方を記述する

- ・ペアやグループでの対話活動、全体での比較検討の場面で、様々な考えに触れる。
 - ・教師は比較検討の中で出てきた意見から、ねらいに迫るものを吹き出し等で強調する。
- ※身に付けた知識及び技能、考え方等を定着させる。

- ・自分の言葉でまとめを書く時間をしっかり確保
- ・まとめを書けるような授業展開とノート指導
- ・カメラ機能とクラウドを用いて、書いた内容を共有

課題

「全国学力・学習状況調査」における 教科・質問紙調査の結果を組織的に活用できていない

手立て

教科・質問紙調査での課題に対し、「推進体制の構築」「授業改善」「家庭の協力」「教育課程の編成」の4つの観点を意識して施策を立てる

具体例

POINT

調査の結果から自校の課題をつかみ、4観点を網羅した取組を行う

- 1 「推進体制の構築」（校内研修、学テの分析等）
 - 2 「授業改善」（学習規律、実践プログラムの活用、まとめを自分の言葉で書く等）
 - 3 「家庭の協力」（家庭学習の確認依頼、生活習慣について保護者会で話題にする等）
 - 4 「教育課程の編成」（朝学習の実施、放課後10分間学習等）
- 一部の教師や教科担当だけでなく、学校全体で4観点を意識化し、組織的に取り組む。

＜4観点を網羅した施策をたて、学力向上に成果がみられた小学校の取組（北総地区）＞

「推進体制の構築」

① 調査問題の分析

- 全国学力・学習状況調査や総合学力調査の結果を各学年で分析
- 誤答、無解答の割合を取り出し、実態を把握

大問	小問	設問内容	誤答割合	無解答割合
5	1	240gの30%は何gかを求めて選ぶ	13.4%	0%
	2	割合の文章から、もとにする量と比べられる量を読み取る	33.4%	0%
	3イ	いちごが好きな人数と割合をもとに全体の人数を求める	46.7%	20%

② 指導方法の工夫

- 授業で使える指導方法を提示
- 「全国学力・学習状況調査を活用したアイディア例」の指導案を単元一覧に位置付け

学習過程	指導方法
見いだす	・本時の考えのもととなることを、既習事項で振り返る場面を設定 ・具体物を使って提示 ・実生活の中から素材などを提示
自分で取り組む	・既習事項を振り返らせ、見通しをもたせる ・考えの手立てとなるキーワード（考えのもと）を出させる

「授業改善」

① 調査問題から授業づくり

- 全国学力・学習状況調査を全職員で解き、今求められている力を分析
- 誤答の多い問題に対しての授業づくり

② 話型の活用

- 話型のモデルや聞き手の型を掲示
- 授業で活用できるよう、「話す・聞くチェックシート」を作り、児童の意識化を図る



授業づくりの様子

	話し方の型	聞き方の型
1 ・ 2 年	自分の考えを 分かりやすく話そう。 ○ブロック、図などをつかって話そう ・ブロックをつかって… ○じゅんじょが分かることばをつかって話そう	友だちの考えを さいごまでしっかりと聞こう。 ○話す人に体をむけ、うなずきながら聞こう ・うんうん ○どんな考えか、しずかに聞こう ・なるほど・わかったよ・そうなんだ・へえ
3 ・ 4 年	自分の考えを 分かりやすく話そう。 ○絵や図、表を使って話そう ・この図のように… ○けつろんを言ってから、理由を	自分の考えと くらべながら聞こう。 ○話し手に、はんのうしながら聞こう ・わかるわかる・そうだよ・それでそれで ○自分の考えと同じところ、ちがうところを

「家庭の協力」

- ① 毎日の家庭での学習習慣の確立
(10分) × (学年) を学習の目安時間として、年度始めに手紙や学校便りを活用して保護者に協力依頼
- ② 「家庭学習がんばり表」の活用
実施時間や振り返りを記入するようにし、児童の取組を教師が把握

/ ()		宿 題		分
保護者印	担任印	自学	計画	分
/ ()		宿 題		分
保護者印	担任印	自学	計画	分

「教育課程の編成」

○ 朝の10分間の活動

- ・月、水 ➡ 読書タイム
- ・火、金 ➡ はげみの時間 (学習の基礎・基本の定着を図る)
- ・木 ➡ 聴く聞くドリル (聞く力を高める)

課 題

【 校内研修 】 「全国学力・学習状況調査」の研修における活用率が低い

手立て

- POINT① 校内研修 1：実施直後の自校の実態分析
 POINT② 校内研修 2：調査問題のねらいの把握と「授業づくり」の検討
 POINT③ 校内研修 3：調査問題を生かした授業実践

具体例

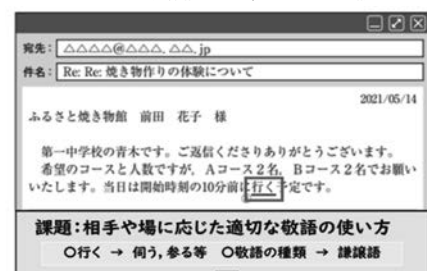
POINT① 校内研修 1：実施直後の自校の実態分析

- 国語、算数・数学等の年度当初の実態把握
- ・児童生徒の解答の写しを取り、職員研修で仮採点を行い、年度当初に実態を把握する。
- 児童生徒質問紙の重点設問に関する実態把握
- ・児童生徒の学習への意識や授業への取組状況、家庭学習の状況等を把握する。



POINT② 校内研修 2：調査問題のねらいの把握と「授業づくり」の検討

- 調査問題のねらいを把握
- ・仮採点により、調査問題のねらいや求められている資質・能力を把握する。
- 調査問題のねらいをもとに「授業づくり」を検討
- ・これまでの授業の振り返りを行い、「どのような授業づくりを行っていけばよいか」を検討する。



実生活の場面を想定した言語活動を位置付けた学習

R3 中学校国語④ より

POINT③ 校内研修 3：調査問題を生かした授業実践

- 「思考し、表現する力」を高める授業実践
- ・実践モデルプログラムを取り入れ、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す。
 - ・調査問題を生かした研究授業を行う。
 - ・授業とリンクした「主体的に取り組める家庭学習」の在り方を検討する。



課題

児童生徒質問紙6「自分にはよいところがあると思う」から 自己肯定感が低い子が多い

手立て

自分の考えを表す場面を設定し、表現したことを認め、評価する

具体例

POINT① 主体的に取り組める課題を設定し、表現の場を設ける

○生活に関わる課題、必要感のある課題など、自分ごととして捉えることのできる課題を設定する

- ・児童生徒がもっている疑問から課題を作りあげる。
- ・身近な生活や社会に関連する課題を設定する。

○課題の解決に向けて、自分の考えを表現する場面を意図的に設ける

- ・自分の考えを整理する時間を確保する。
- ・自分の考えを全体、グループに伝える場を設定する。

- ・疑問に思っていること
「なぜ…」、「どうして…」
- ・解決したいこと
「どうしたら…」
- ・興味・関心をもったこと
「さらに詳しく…」
- ・可能性
「～できるだろうか？」

POINT② 認め合いのできる場面設定と学習形態を工夫する

○対話的な学習活動をねらった場面を設定する

- ・協働して解決できる場面の設定。
- ・多面的な見方や複数の考え方を引き出せる場面の設定。

○課題や場面に応じた学習形態を工夫する

- ・「班学習」
いろいろな考え方があることに気づき、相違点、共通点を整理して思考を深める。
- ・「ペア学習」
相手との意見の違いを比較しながら、自分の考えを深め、よりよいものにしようとする。

- 話し合いの場でのルール
- ・相手の話を目を見ながら反応してしっかりと聞く。
 - ・自分の考えを、根拠を明確にして伝える。
 - ・仲間の意見、考えを肯定的に受け入れる。
 - ・仲間のよいところを具体的に称賛する。

POINT③ 自分の取組を振り返る場面と、認め、評価する場面を設ける

○「自分がやった」という実感をもたせる

- ・自分が分かったこと、できるようになったことを振り返りシート、自己評価カード等に記録を残し、成果を確かめられるようにする。

○表現したことを認め、評価する

- ・児童生徒の振り返りに対し、児童生徒の変化に気づき、適切に評価し、具体的な場面を取り上げて褒めることができるようにする。

褒めるときのポイント

- ・具体的な場면을認め褒める。
- ・タイミングよく褒める。
- ・思いを汲み取って褒める。